

201001005B

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業

高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方  
と見守り基準に関する研究

—平成20年度～22年度調査(3年間)報告—

平成20～22年度 総合研究報告書

研究代表者 津村智恵子

平成23(2011)年3月

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業

高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方  
と見守り基準に関する研究

—平成20年度～22年度調査(3年間)報告—

平成22年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 津村 智恵子

平成23(2011)年3月

	目 次	1
はしがき	.....	2
研究組織、経費	.....	3
I. 総括研究報告		
高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究(継続3年間の調査報告)	主任研究者 津村智恵子	
研究目的、方法、倫理的配慮	.....	4
第1章 調査地区の概要	.....	6
第2章 見守り組織参加者と見守りチェックシート(案)の試行	.....	11
第3章 見守り組織参加者への研修、グループインタビュー	.....	34
第4章 先進的見守り組織・活動実践地域の視察	.....	56
第5章 まとめ・提言	.....	58
(別添資料)1. 見守りチェックシート(案)	.....	70
2. シナリオ『友蔵さん』(修正版)	.....	71
II. 分担研究報告		
1. 泉南市の高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究(大阪府泉南市継続3年間 調査報告)	分担研究者 河野あゆみ	
2. 羽曳野市の高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究(大阪府羽曳野市継続3年間調査報告)	分担研究者 和泉京子	
3. 堺市西区の高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究(大阪府堺市西区継続3年間調査報告)	分担研究者 臼井キミカ	
4. 堺市南区の高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究(大阪府堺市南区継続3年間調査報告)	分担研究者川井太加子 山本美輪 前原なおみ	
5. 神戸市東灘区の高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究(神戸市東灘区継続3年間調査報告)	分担研究者 榊田聖子	
6. 神戸市須磨区の高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究(神戸市須磨区継続3年間調査報告)	分担研究者大井美紀,鍛冶葉子	
7. 福井県勝山市限界地域の高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究(福井県勝山市継続3年間調査報告)	分担研究者金谷志子	
8. 高知県芸西村の高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究(高知県芸西村継続3年間調査報告)	分担研究者大井美紀,鍛冶葉子	
9. 高知県大豊町の高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究(高知県大豊町継続3年間調査報告)	分担研究者 上村聡子	
10. 高齢者見守り組織の先進的取組み地域視察報告	分担研究者 前原なおみ	
11. 大阪府のIT見守りを取入れた孤立死防止をめざすモデル活動報告	協力者 寺内謙元	

## はしがき

人口構造および世帯構成の将来推計より、わが国の超高齢化は一層進み、近隣間での人々のつながりが希薄になり、お互いの生活に無関心な生活スタイルが定着しつつある。特に、経済基盤が脆弱な家族や、一人暮らし高齢者、高齢夫婦のみ世帯の高齢者が病気や怪我、災害などの危機的状态に陥ったときに誰にも助けを求めることができず心中・介護殺人など、悲惨な状況で孤独な死を迎えていることが、新聞テレビで報道され社会問題化している。このような孤独死の背景には、高齢者のセルフ・ネグレクト(自己放任、以降省略)の可能性が高く、セルフ・ネグレクト状態の中・高齢者等の孤独死は、今後増え続けることが予測される。

高齢者のセルフ・ネグレクトの問題については、正常な判断能力を持つ者の自由意志に基づく行為の結果は、個人の選択の問題であり、法的介入や医療保健福祉の専門家の介入対象にならないという考え方がある。その一方で、セルフ・ネグレクトは個人がコントロールできず、周囲の状況によって起こる結果であり、安全や健康を脅かしている場合、専門家が介入を行うべき問題であるという考え方もある。人権意識の低いわが国で高齢者の人権を守る観点から、セルフ・ネグレクトは見逃すことができない問題である。また、セルフ・ネグレクトに関する最新の文献レビューでは、高齢者の認知機能障害と抑うつがセルフ・ネグレクトの二大要因であり、高齢者のセルフ・ネグレクト状態は死亡の危険性が著しく高いことを示唆し、セルフ・ネグレクトの見守りによる早期発見・早期介入支援が必要な状態であることを明確に指摘している。しかし、セルフ・ネグレクトはわが国の虐待防止法では未だ定義されていない。

平成18年「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」施行後、厚生労働省は全国市町村に地域見守り組織構築の重要性を指摘したが、平成21年度全国市町村の住民等からなる早期発見・見守り組織構築への取組みは67.0%、2年前の16.8%に比べ急速に増えてきてはいる。しかし、孤独死の主原因となるセルフ・ネグレクト状態の中・高齢者の早期発見、見守り組織に関する実証研究は、国内及び海外の文献資料などでも希少な取り組みである。

本研究の目的は、セルフ・ネグレクト状態等の高齢者の早期把握のため求められている都市や僻地の地域見守り組織について、見守り専任職員の雇用の有無による活動の違いと課題を明らかにし、セルフ・ネグレクトの早期発見・見守り組織を育成するプログラム作成し、併せて、住民のセルフ・ネグレクト等困難事例の早期発見チェックリスト作成にある。

平成20年度～22年度迄の3年間、本研究の目的に従い、初年度の各地域の見守り組織の実態調査をふまえて住民ボランティアが用いる見守りチェックリストを作成、これを用いて21、22年度の2年間は調査対象地区内の見守り組織構成員等への介入研究を行い、見守りチェックリストの使用と併せ、ボランティア研修の実施を通して、見守り組織の活動内容・方法の変化を調査した。また、見守り組織のモデルとなる全国4か所の先進的見守り組織を視察し、見守り組織育成のあり方への参考とした。

本報告書は、市町村および地域包括支援センターが担うセルフ・ネグレクト状態等の高齢者の早期発見・早期把握のための基礎資料として役立つものとする。

平成 23年 3月 吉日

主担研究者・分担研究者

## 研究組織

- 研究代表者 :津村智恵子 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 学部長)  
分担研究者 :河野あゆみ (大阪市立大学大学院看護学研究科 教授)  
和泉京子 (大阪府立大学看護学部看護学研究科 准教授)  
臼井キミカ (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 教授)  
大井美紀 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 准教授)  
梶田聖子 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教)  
鍛治葉子 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教)  
前原なおみ (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教)  
上村聡子 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教)  
金谷志子 (大阪市立大学大学院看護学研究科 講師)  
川井太加子 (桃山学院大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授)  
山本美輪 (藍野学院大学保健医療保健学部 准教授)
- 研究協力者 :佐瀬美恵子 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 准教授)  
藤田俱子 (大阪市立大学大学院看護学研究科 特任講師)  
大川聡子 (大阪府立大学看護学部看護学科 助教)  
岡本和久 (神戸市灘区保健福祉部保護課 主査)  
寺内謙元 (大阪府県健康福祉部高齢介護室介護支援課在宅支援グループ)  
杉山美雪 (社会福祉法人長寿会特別養護老人ホームコミュニティソーシャルワーカー)  
清本好美 (泉南市地域包括支援センター六尾の郷介護支援専門員)  
尾久聖子 (羽曳野市保健福祉部高年介護課 保健師)  
野上伸一 (羽曳野市保健福祉部高年介護課 社会福祉士)  
吉田豊子 (悲田院在宅介護支援センター ケアマネジャー)  
上村啓子 (堺市西地区地域包括支援センター 所長 保健師)  
山田真紀子 (堺市西地区地域包括支援センター 社会福祉士)  
田中美智 (堺市西地区地域包括支援センター 社会福祉士)  
渡辺隆一 (堺市西地区地域包括支援センター 社会福祉士)  
西尾晃代 (堺市西地区地域包括支援センター 社会福祉士)  
湯元尊敏 (堺市南区役所地域福祉課 課長)  
下熊京子 (堺市南区地域包括支援センター 所長)  
山崎智子 (堺市南区地域包括支援センター 社会福祉士)  
淡路深雪 (堺市南区地域包括支援センター 社会福祉士)  
野村憲子 (堺市南区地域包括支援センター 社会福祉士)  
織田優子 (福井県勝山市地域包括支援センター主任 所長補佐 保健師)  
梅林由紀 (は～とらんど甲南あんしんすこやかセンター 課長)  
中嶋千秋 (は～とらんど甲南あんしんすこやかセンター 見守り推進員)  
植田昌美 (神鋼ケアライフ岡本あんしんすこやかセンター 看護師)  
小林あゆみ (神鋼ケアライフ岡本かんしんすこやかセンター 見守り推進員)  
大野真喜恵 (神戸市須磨区保健福祉部あんしんすこやか係 保健師)  
萩原 哲 (神戸市須磨区保健福祉部健康福祉課 課長)  
和田昌子 (高知県芸西村地域包括支援センター管理者 保健師)  
村岡 節 (高知県大豊町地域包括支援センター管理者 保健師)  
小松隆章 (高知県大豊町住民課福祉介護班)  
前田小百合 (三重県志摩市ふくし総合支援室 社会福祉士)  
原田恵美子 (羽曳野市羽曳が丘元民生委員地区長)  
西田政弘 (羽曳野市羽曳が丘E&L創始者)

研究経費： 平成20年度～22年度(継続3年間)

12,610,000円

## 研究目的

- 1) 住民ボランティア用の見守りチェックリストの作成。
- 2) 調査対象地区内の見守り組織構成員等に研修を実施、見守り専従職員の有無別での見守り組織活動内容・方法の変化を調査。
- 3) 見守りボランティアに対し研修を行い、見守り組織研修プログラム(案)試行の成果をみる。
- 4) 全国の先進的見守り組織視察(4ヵ所)、見守り組織育成の在り方への参考にする。

## 研究方法

本年度の研究目的 1)~4)に添って、調査の方法・内容、対象などについて述べる。

### 1) 住民ボランティア用の見守りチェックリストの作成、回収と量的分析

20年度見守り組織メンバー対象 600 人の実態調査をふまえ、21,22 年度の2年間引き続き協力を得られた各地区の見守り組織メンバーに見守りの必要性について研修と併せ、見守りチェックシートの使い方等を説明し、その後配布。この研修及び説明会の後、3ヵ月経過後後に使用を確認し、回収できた見守りチェックシート 6 市町村 8 組織 103 人分、アンケート 152 部であった。

分析は、見守りチェックシートの項目を地域別及び見守り専門職の有無別で比較・検討を行い、チェックシート内容については、統計ソフト SPSS Ver.15 を用い集計、分析を行った。

### 2) 住民見守り組織の活動の実際、主に質的分析

20 年度の実態調査をふまえ、21,22 年度の2年間引き続き協力を得られた各地区の見守り組織メンバー及び、関係する保健医療福祉職従事者を対象に、ほぼ同一内容の研修を 2 年間実施。この研修の参加者の内、前年度から引き続き協力を得ている 6 市町村 8 組織の見守り組織メンバーにグループ又は個別インタビューを実施。同意の得られた対象者の逐語録を作成。同意が得られていたが録音した音声聞き取りにくい場合等については、書記メモ・議事録をもとに発言内容をまとめた。逐語録データは、テキストマイニングツールである Text Mining Studio3.1 (数理システム)により分析を行なった。

また、22 年度は見守り及び研修プログラム参加のボランティアを対象に、本研究参加前と参加後 3 年目のボランティア自身の見守り活動への考え方や参加行動の変化等についてアンケート調査 134 人分を回収、分析した。

### 3) 見守り組織研修プログラム(案)の試行

21年度研修は、「高齢者虐待はなぜ起きるのか、近隣見守り組織は今なぜ必要なのか、見守りチェックシートはなぜ必要か等」、見守りチェックシート(案)の使い方説明等が主であった。

22 年度研修は、10 分程度の劇、セルフ・ネグレクト状態の高齢者を騙す経済的虐待シナリオ『友蔵さん』(pp71~74)を作成、地域の民生委員やボランティアが声優となり即席劇を以て「ドラマティック・リリーフ体験」を行い、その後意見交換等を行った。

研修会の構成、「ドラマティック・リリーフ体験」とその後のグループワークにおける意見交換の内容は以下 pp35 の表 1・2 に示す。同意を得られた対象者からは、グループワークでの発言を IC レコーダーで録音し逐語録を作成した。録音に同意を得られなかった対象者、もしくは録音した音声聞き取りにくい場合には、議事録をもとに発言内容をまとめた。

さらに研修会終了後、研修参加者全員から『セルフ・ネグレクト(自己放任)研修アンケート』を記載・回収し、その中で「セルフ・ネグレクト状態の人を地域で支えていくにはどうするか」について自由記載に

より回答を得た。回答を記載していた者は、134名中53名であり、記載内容を一括(618単語使用)した。得られたデータは、グループワークでの意見・アンケート記載内容をText Mining Studio3.1(数理システム)により分析を行なった。

20年度～22年度まで、引き続き協力を得ている6市町村8組織の見守り組織メンバー272人について、前述(3)のグループ又は個別インタビュー実施の際、一緒に今回の研修プログラムへの意見等を聞き、同意が得られ逐語録データは、テキストマイニングツールであるText Mining Studio3.1(数理システム)により分析を行なった。また、見守りチェックシート(案)回収後、集計結果を各地区の見守り組織に報告。その際、研修依頼を受けた市町では身近な事例をシナリオに研修を実施している。

#### 4) 先進的見守り組織の視察

インターネットで全国市町村のうち、高齢者見守り組織活動が活発に行われている市町を検索、2年間で三重県志摩市、大阪府羽曳野市、北海道室蘭市、福岡県大牟田市の視察の成果を掲載。また、本研究の代表者及び分担者等が主催する大阪高齢者虐待研究会で21年に引き続き22年も「見守り訪問拒否の孤立高齢者へのITによる見守り」を紹介し、反響があったのでここに掲載。

今回の研究目的1)～3)に添う調査対象から、21年度中途に調査継続不可能であることが判明した見守り地区、見守り組織を本研究の対象から除外した。削除対象は1市1町、減員数119人。政令市地域枠で継続調査を予定していた大阪市区内の地区の場合、担当課長及び地域包括主任等の転勤により2地区86人に減少した。さらに調査地域の民生委員、組織メンバー等の任期切れ交代等で22年度までの3年間継続の追跡可能対象数は152人、25.3%と本調査開始20年度対象数600人の1/4に減少していた。また、同じく、過疎・限界集落枠で調査を予定していた高知県大豊町は高齢化率80%、深刻な過疎化のため、住民による見守りから撤退することになった。そこで、22年度は大豊町の見守り組織のIT化導入がもたらした、その成果を『分担研究者報告 No. 9』として掲載することにした。

#### 倫理的配慮

作成した3年間の研究計画書は平成20年5月に甲南女子大学倫理審査委員会に提出し、承認を得ている。対象者の個人情報の遺漏がないよう調査対象市町の個人情報保護条例を遵守、現地関係専門職及び所属長等の了解を取り、対象の見守り組織代表者、インタビュー対象者等にも同様の配慮・手続きをした上でアンケート調査及び、インタビュー調査を実施した。両調査とも、調査票や逐語録データは作業終了までは鍵戸棚に保管している。インタビューデータは個人が特定できないよう実施後速やかに音声言語を文字・記号化し処理した。その後、分析作業終了まで鍵戸棚に厳重に保管し、両調査のデータはともに本研究終了後直ちに焼却している。

# 第1章 調査地区の概要

## 1. 政令指定都市の調査地区と高齢者見守り活動

### 1) 神戸市の調査地区と高齢者見守り活動

市町・地区名	神戸市東灘区	神戸市須磨区
地域概要	海と山に囲まれ、区の中央を川が流れ景観豊かな街で震災後は若い世代を中心に新たなマンション群が建設され人口は増加傾向にある。大学や美術館など文化・教育施設も多く、文化・教育環境に恵まれている。また、日本有数の酒どころを有し、情緒あふれる町並みも見所である。その他、調査2地区は区の中央部に位置し、だんじり祭りの古い伝統文化に加え、災害復興住宅、学生街、高級マンションなど集合住宅が多く交通の便もよい。 面積は、約30.36km <sup>2</sup> で神戸市の約5.5%を占め、人口は、神戸市の13.6%を占め	神戸市の中西部に位置し、南側の古くからある市街地と北側の大規模なニュータウンとで構成された閑静な住宅地である。文化・教育施設にも恵まれているが、毎夏、多くの観光客で賑わう「須磨ビーチ」や明石海峡大橋が一望できる須磨の山々「須磨アルプス」などの自然に恵まれ、近年はブームの「源氏物語」ゆかりの地としても注目されている。面積は、約30km <sup>2</sup> で、神戸市の約5.4%を占め、人口は神戸市の約11%を占める。調査対象は高齢化率22.2、22.3、31.0%の東部3地区である
人口など	人口 210,673人 (2011.1月現在) 65歳以上人口 41,356人 高齢化率 19.6%	人口 168,203人 (2010.3月現在) 65歳以上人口 41,692人 高齢化率 24.8%
地域包括支援センターの形態と見守り活動	・民間委託による10カ所 ・2地区あんしんすこやかセンター(包括支援センター) ・構成員:主任ケアマネージャー1人、社会福祉士1人、保健師1人、見守り推進員1人	・民間委託による8カ所 ・3地区あんしんすこやかセンター(包括支援センター) ・構成員:主任ケアマネージャー1人、社会福祉士1人、保健師1人、見守り推進員1人
見守り組織構築の変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S53:民生委員・友愛訪問、自治会、老人会、婦人会活動による単身高齢者等の訪問活動実施</li> <li>・H9:シルバーハウジング、復興公営住宅に市は生活援助員(LSA)を配置し見守り活動を実施</li> <li>・H13:あんしんすこやかセンターに市は見守り推進員を配置。各種民間見守り組織と連携し見守り活動を実施</li> <li>・H14:ガスメーターのICTを活用した単身高齢者見守りを実施</li> </ul>	
地域包括支援センターの見守り支援関連活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活援助員、見守り推進員など専門職による必要高齢者への定期的及び随時の見守り活動の実施</li> <li>・あんしんすこやかセンターは担当地区内の単身高齢者及び75歳以上老々世帯の実態調査、民生委員等と小地域見守り連絡会を定例(1回/2,3ヵ月)及び、必要随時開催</li> <li>・見守りネットワーク育成研修(4回/年)</li> </ul>	
見守り活動の組織形態		
見守り事務局、規約	事務局:あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター) 見守り活動推進事業実施規約あり	
見守り基準	専門職用見守り基準あり	

・神戸市では、震災以降に誕生した社会福祉協議会所属の生活援助員、見守り推進員がそれぞれ区社会福祉協議会、あんしんすこやかセンターに配属され、見守りハイリスク高齢世帯等を定期及び必要随時訪問を実施している。



## 2) 堺市の調査地区と高齢者見守り活動

市町・地区名	堺市南区	堺市西区
地域概要	<p>泉北ニュータウンを中心とした市街地とその周辺に集落地などがある。ニュータウンとしては全国最大であり、入居40年を経過した2007年6月時点で、約58,000世帯、14万2,000人が居住している。現在は高齢化が進み高齢化率が23%を超える住区が多くなっている。</p> <p>また、核家族化による人口流出が進み、一人暮らし高齢者世帯の増加に伴い、見守り活動などの推進が求められている。</p>	<p>市西南部地域の核として市街地の整備が進められており、臨海地や内陸部の工業地とあわせ農地などもある。寺社などの歴史文化遺産を多く有し、だんじり祭りや布団太鼓などの伝統行事も地域に受け継がれている。</p> <p>アクセスは、新大阪からは地下鉄で約30～40分、関西国際空港からは南海本線で30分、大阪空港からは空港バスで約50分の距離にあり交通の便はよい。</p>
人口など	<p>人口 158,834人 (2010.12月現在)</p> <p>65歳以上人口 35,306人</p> <p>高齢化率 22.2%</p>	<p>人口 136,250人 (2010.9月現在)</p> <p>65歳以上人口 28,868人</p> <p>高齢化率 21.2%</p>
地域包括支援センターの形態と見守り活動	<p>・堺市公社による直営が区に1カ所。</p> <p>・構成員: 所長1人、主任ケアマネージャー1人、社会福祉士2人、プランナー9人、事務職員4人、非常勤: プランナー2人。</p>	<p>・堺市公社による直営が区に1カ所。</p> <p>・構成員: 保健師兼所長1人、主任ケアマネージャー(看護師)1人、社会福祉士2人、保健師1人、非常勤: 看護師他6人。</p>
見守り組織の名称、数、参加人数	<p>・「地域のつながりハート事業」(小地域ネットワーク活動推進事業)</p> <p>・20校区の見守りネットワーク地域ケア推進チームメンバー約300人(民生委員や校区福祉委員が中心になり活動)</p>	<p>・西区高齢者ちよこっとネット堺市公社による直営が区に1カ所</p> <p>・ネットワーク推進委員: 6校区/14校区、約200人</p> <p>・見守り対象数: 30人以上/各校区</p>
地域包括支援センターの見守り支援関連活動	<p>・「お元気ですか」訪問 1回/月</p> <p>・孤立死調査・分析: 26件</p> <p>・いきいきサロン2回/月</p> <p>・ボランティアビューロ1回/月</p> <p>・独居、昼間独居高齢者配食サービス、誕生会1回/月</p> <p>・グループホーム職員研修1回/年 介護家族等研修2回/年</p>	<p>・「お元気ですか」訪問 1回/月</p> <p>・いきいきサロン1回/月</p> <p>・ボランティアビューロ1回/月</p> <p>・災害時一人も 見逃さない活動: 名簿作成(校区差あり)</p> <p>・高齢者支援関係機関研修: 7回/年</p>
見守り活動の組織形態		
見守り事務局、規約	<p>事務局: 地域包括支援センター</p> <p>・規約: なし</p>	<p>事務局: 地域包括支援センター</p> <p>・規約: なし</p>
見守り基準	<p>・民生委員用見守りチェック表あり</p>	<p>・なし</p>

・堺市は各区の地域包括支援センターが中心になり各区の住民主体の地域見守りネットワーク活動推進委員による活動システム構築に向け奮闘している。

## 2. 近郊都市部の調査地区の状況

市町・地区名	大阪府泉南市	大阪府羽曳野市
地域概要	泉南市は大阪府南部に位置し、市の北西部は大阪湾に面し、南東部は和泉山脈を境に和歌山県と接している。平地部ではほとんど宅地や農地として利用されている。沖合の関西国際空港の一部も泉南市であり、空港に関する産業の活性化が図られ、大阪の大都市部への通勤圏内でもある一方古くからの対象農漁業なども営まれている。調査対象のM地区は大阪市内へは1.5～2時間の新興住宅と旧農村の兼業農家である。	大阪府の南東部に位置し、調査4地区中2地区は大阪市内から約20km圏内にあり、旧長尾街道沿いを中心に住宅が密集し交通の便もよく、大阪市内には至る時間は電車、車で30分程度である。他の2地区は大阪市内には1～1.5時間程度は要するが、羽曳野丘陵地帯の広域的な住宅地・学園地域とぶどう畑等の農地が広がり、集落地が点在する農村地域である。
人口など	人口 65,733人 (2010.2月現在) 65歳以上人口 13849人 高齢化率 20.5%	人口 118,688人 (2010.9月現在) 65歳以上人口 27,175人 高齢化率 22.9%
地域包括支援センターの形態と見守り活動	・民間委託による2ヶ所。 ・M地区包括支援センター構成員:主任ケアマネージャー1人、社会福祉士2人、保健師1人。 ・ハイリスク見守り対象実態把握調査と見守り必要高齢者訪問は市から委託を受け、地域包括支援センター専門職が担当。	・市の直営によるもの1ヶ所。 ・地域包括支援センター構成員:主任ケアマネージャー1人、社会福祉士1人、保健師5人。 ・見守り必要高齢世帯の実態調査は市が実施。 ・必要高齢者への見守り活動はふれあいネット雅比会議で決め実施。
見守り組織の名称、数、参加人数	泉南市M地区高齢者見守りネットワークは9地区に分かれて活動 参加数:41人	ふれあい雅比 14小学校区、参加総数213人 調査4地区 参加数:78人
地域包括支援センターの見守り支援関連活動	・認知症予防事業:(有効な情報収集可能な場)担当地区内19ヶ所で開催 1回/月 115回/年延2256人 ・地域ケア会議(毎月1回) ・見守りネットワーク研修・会議(随時)	・見守り活動は地域在宅介護支援センターが担当地区内の1～3小学校区を担当し月1回、必要随時会議を開催。 ・見守りネットワーク育成研修(5～7回/年)
見守り活動の組織形態		
見守り事務局、規約	事務局:地域包括支援センター 見守りネット運営規約:あり	事務局:地域在宅支援センター 見守りネット運営規約:あり
見守り基準	地域包括支援センター職員の訪問対象基準あり。	ふれあいネット雅比参加者用の訪問レベル基準あり。

- ・泉南市は地域包括支援センターが、羽曳野市は市の担当課が担当して、「単身高齢者及び老々介護世帯の実態調査」を2.3年毎に実施している。
- ・泉南市は地域包括支援センターが担当して、要見守り単身高齢者及び老々介護などハイリスク世帯の継続見守りを、基準をもって定期・随時訪問している。
- ・羽曳野市はふれあいネット雅比と7ブロックの旧在宅介護支援センターが担当して、要見守り単身高齢者及び老々介護などハイリスク世帯の継続見守りを、基準をもって定期・随時訪問している。

### 3. 限界地域の調査地区と高齢者見守り活動

#### 1) 山間部・限界地域の調査地区と高齢者見守り活動

市町・地区名	北谷地区	長山地区	立川地区	元町3丁目地区
地域概要	勝山市の北東に位置し、市街地より約7kmの山間部にあり、県内でも降雪量の多い地域である。地区は7集落からなる。	勝山市の中央に位置し、市役所より2kmにある。地区内に病院や消防署がある。古くからの住宅が中心にあり、周辺に新興住宅がある。	勝山市の中央、西に九頭竜川が位置している。市役所より500mにある。古くからの住宅が中心にあり、周辺に新興住宅がある。	勝山市の中央に位置し、市役所より800mにある。古くからの住宅と、新興住宅が混在している。
人口 (2010.1 現在)	人口 115人 65歳以上人口 70人 高齢化率 60.9%	人口 760人 65歳以上人口 237人 高齢化率 31.1%	人口 634人 65歳以上人口 187人 高齢化率 29.5%	人口 731人 65歳以上人口 224人 高齢化率 30.6%
地域包括支援センターの形態と見守り活動	勝山市地域包括支援センター 1箇所 保健師 2名 社会福祉士 1名 主任ケアマネージャー1人 介護支援専門員4人			
見守り組織構築の有無、活動参加者など	見守り組織はないが住民同士が日常の中で互いに見守っていた。高齢化率が高く、高齢者同士の見守りの継続が課題である。	民生委員、地区ボランティアらによる地区の生きがいサロン活動が活発である。サロンをとおして地区の高齢者の状況を把握している。	なし	なし
地域包括支援センターの見守り支援関連活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>集落別研修会の実施(ふれあいサロンと共催)</li> <li>困ったときの連絡先、高齢者に多い病気とその対応のパンフレット配布</li> <li>見守りチェックシートを全戸配布</li> <li>日々の見守りの実施</li> <li>高齢者見守り活動の研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り組織設立準備会</li> <li>見守り組織設立総会・研修会</li> <li>見守りチェックシートを用いて見守りの実施</li> <li>高齢者見守り活動の研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明会・研修会の実施</li> <li>高齢者見守りに関するアンケート調査の実施</li> <li>見守りチェックシートを用いて見守りの実施</li> <li>高齢者見守り活動の中間総括会議</li> <li>高齢者見守り活動の研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会役員への説明</li> <li>見守りチェックシートを用いて見守りの実施</li> <li>見守り組織立ち上げ準備</li> <li>高齢者見守り活動の研修会</li> </ul>
見守り活動の組織形態				
見守り事務局、規約	会議事務局： 地域包括支援センター	会議事務局： 地域包括支援センター	会議事務局： 地域包括支援センター	会議事務局： 地域包括支援センター
見守り基準	見守りネット運営規約:なし	見守りネット運営規約:なし	見守りネット運営規約:なし	見守りネット運営規約:なし

- ・ハイリスク高齢者帯への定期及び随時訪問を公的に支援するシステム構築が出来ている
- ・勝山市は地区社会福祉協議会専門員が担当している。

## 2) 農村部・限界地域の調査地区と高齢者見守り活動

市町・地区名	高知県芸西村	高知県大豊町
地域概要	<p>村の南は土佐湾に面し、北を山地に、東西を台地に囲まれ、冬でも温暖であり、ナス・ピーマン等の県内屈指の園芸農村である。高知市から東へ30km(高知龍馬空港からは車で約20分)行政区域は東西約5km、南北約9km。面積は、約39.63km<sup>2</sup>。</p>	<p>県の東北端四国山地の中央部に位置し、集落は標高200から700メートルという急傾斜地に散在しており、耕地は総面積の1.1%に過ぎず、棚田、傾斜畑で形成されている山村である。厳しい立地条件から人口流出は止まない。</p>
人口など	<p>人口 4,086人 (2010.3月現在) 65歳以上 1,298人 高齢化率 31.8% (高齢化率50%以上の集落を含む)</p>	<p>人口 4,909人 (2011.2月現在) 65歳以上 2,609人 高齢化率 53.2% (85集落中、5集落は高齢化率80%以上)</p>
地域包括支援センターの形態と見守り活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直営1カ所(役場内に設置)</li> <li>・構成員:センター長1人(村長)、介護支援係長1人(保健師)、主任ケアマネージャー1人、社会福祉士1人、看護師1人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直営1カ所(役場内住民課併設)</li> <li>・構成員:保健師1人、主任ケアマネージャー1人</li> <li>・地域担当相談職員3人(住民課)</li> </ul>
見守り組織構築の有無、活動参加者など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に民生児童委員(約二十数名)が役割を担当</li> <li>・自主防災組織(各地区の自治会)が日常生活の中で高齢者見守る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り組織:住民課よろず相談職員3人の各担当地域内活動</li> <li>・主に民生委員、区長、近隣住民ボランティアが日常生活の中で高齢者を見守る</li> </ul>
地域包括支援センターの見守り支援関連活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括専門職による定期的及び随時の見守り活動の実施</li> <li>・民生委員等と定期及び必要随時会議開催(地区見守り会議、定期4回/年)。</li> <li>・民生委員等の研修(2回/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よろず相談職員による定期的及び随時の見守り活動の実施</li> <li>・民生委員等と必要随時会議開催(地区見守り会議)。</li> <li>・民生委員等の研修(2回/年)</li> </ul>
見守り活動の組織形態		
見守り事務局、規約	<p>会議事務局:地域包括支援センター</p> <p>見守りネット運営規約:なし</p>	<p>会議事務局:地域包括支援センター</p> <p>見守りネット運営規約:なし</p>
見守り基準	なし	なし

- ・ハイリスク高齢世帯への定期及び随時訪問を公的に支援するシステム構築が出来ている。
- ・芸西村はベテラン保健師とほとんどの世帯の住民生活を把握する地域包括支援センター職員が担当している。
- ・大豊町は地域包括支援センターと同一課に所属する地域担当相談員が担当している。

## 第2章 見守り組織参加ボランティアと見守りチェックシート(案)の試行

既に研究方法で述べているが、平成22年度は見守り及び研修プログラム参加のボランティアを対象に、本研究参加前の平成20年と、同一ボランティア参加者の3年後の見守り活動への考え方や参加行動の変化等についてアンケート調査134人分、見守りチェックシート(案)103人分を回収、分析した。

### I 結果

#### 1. 見守り組織体制の現状と変化

##### 1) 地域特性格見守り組織体制の現状と変化

「近隣の方々との信頼感は築きやすいですか」については、「築きやすい」と答えた人は、平成20年度、平成22年度ともに、農村部が多かった。「あなたの地区の方々、近隣の役に立ちたいと思っていると思うか」については、「思う」と答えた人は、平成20年度には、地域特性格で差はみられなかった。しかし、平成22年度では、農村部が都市部や都市近郊に比べて多かった。

「住んでいる地区のどの程度愛着があるか」については、「愛着がある」と答えた人は、全ての地域で高かった。「ご近所とどのような付き合いをしているか」については、平成20年度、平成22年度ともに都市部の方が「生活面での付き合い～立ち話程度」が多かった。「見守りをやっている地域の方々とのお付き合いの人数はどの位か」については、農村部で「地域の全ての人～地域の半分の人」が多かった。

##### 2) 見守り専従の有無別見守り組織体制の現状と変化

「近隣の方々との信頼感は築きやすいですか」については、「築きやすい」と答えた人は、平成20年度、平成22年度ともに、見守り専従ありの地域で多かった。

「あなたの地区の方々、近隣の役に立ちたいと思っていると思うか」については、「思う」と答えた人は、平成20年度では見守り専従ありの地域で「思う」と答えた人が多かったが、平成22年は見守り専従なしの地域で多かった。

「住んでいる地区のどの程度愛着があるか」については、「愛着がある」と答えた人は、見守り専従の有無別でも有意差はみられなかった。

「ご近所とどのような付き合いをしているか」については、見守り専従の有無別では、平成20年度、見守り専従ありの地域で「生活面での協力～立ち話程度」が多いが、有意差はなかった。しかし、平成22年度には、見守り専従ありの地域で有意に「生活面での協力～立ち話程度」が多かった。

「見守りをやっている地域の方々とのお付き合いの人数はどの位か」については、見守り専従の有無別では、平成20年度は、有意に見守り専従ありの地域で「地域の全て～半分の人」が多かった。平成22年度は、見守り専従ありの地域で「地域の全て～半分程度の人」が多かったが、有意差はみられなかった。

表 1-1 あなたが地区に感じていることについて(地域特性別)  
平成 20 年度実態調査と平成 22 年度アンケートとの比較

項目	地域特性別	平成22年度			平成20年度			
		築きやすい	築きにくい	計	築きやすい	築きにくい	計	
近隣の方々と信頼感は築きやすいか	都市部 (n=57)	人数 41	16	57	都市部 (n=394)	人数 256	138	394
		% 71.9	28.1	100.0		% 65	35	100.0
	農村部 (n=43)	人数 35	8	43	農村部 (n=113)	人数 88	25	113
		% 81.4	18.6	100.0		% 77.9	22.1	100.0
	都市近郊 (n=20)	人数 14	6	20				
		% 70.0	30.0	100.0				
あなたの地区の方々は、近隣の役に立ちたいと思っていると思うか	都市部 (n=56)	人数 35	21	56	都市部 (n=375)	人数 230	145	375
		% 62.5	37.5	100.0		% 61.3	38.7	100.0
	農村部 (n=43)	人数 34	9	43	農村部 (n=111)	人数 68	43	111
		% 79.1	20.9	100.0		% 61.3	38.7	100.0
	都市近郊 (n=20)	人数 13	7	20				
		% 65.0	35.0	100.0				
住んでいる地区にどの程度愛着があるか	都市部 (n=58)	人数 54	4	58	都市部 (n=381)	人数 327	54	381
		% 93.1	6.9	100.0		% 85.8	14.2	100.0
	農村部 (n=43)	人数 40	3	43	農村部 (n=113)	人数 105	8	113
		% 93.0	7.0	100.0		% 92.9	7.1	100.0
	都市近郊 (n=20)	人数 19	1	20				
		% 95.0	5.0	100.0				
ご近所とどのような付き合いをしているか	都市部 (n=55)	人数 53	2	55	都市部 (n=373)	人数 308	65	373
		% 96.4	3.6	100.0		% 82.6	17.4	100.0
	農村部 (n=43)	人数 36	7	43	農村部 (n=101)	人数 74	27	101
		% 83.7	16.3	100.0		% 73.3	26.7	100.0
	都市近郊 (n=20)	人数 18	2	20				
		% 90.0	10.0	100.0				
見守りを行っている地域の方のおつきあいの人数はどの位か	都市部 (n=56)	人数 26	30	56	都市部 (n=381)	人数 182	199	381
		% 46.4	53.6	100.0		% 47.8	52.2	100.0
	農村部 (n=42)	人数 27	15	42	農村部 (n=106)	人数 75	31	106
		% 64.3	35.7	100.0		% 70.8	29.2	100.0
	都市近郊 (n=19)	人数 7	12	19				
		% 36.8	63.2	100.0				

表 1-2 あなたが地区に感じていることについて(見守り専従の有無別)  
平成 20 年度実態調査と平成 22 年度アンケートとの比較

項目	見守り専従の有・無			計	P値	見守り専従の有・無			計	P値	
近隣の方々と信頼感は築きやすいか	見守り専従なし (n=57)	人数	41	16	57	見守り専従なし (n=285)	人数	184	101	285	0.072
		%	71.9	28.1	100.0		%	64.6	35.4	100.0	
	見守り専従あり (n=63)	人数	49	14	63	見守り専従あり (n=222)	人数	160	60	220	
		%	77.8	22.2	100.0		%	72.1	27.9	100.0	
		思う			計			思う			
		思わない			計			思わない			
あなたの地区の方々は、近隣の役に立ちたいと思っていると思うか	見守り専従なし (n=57)	人数	39	18	57	見守り専従なし (n=205)	人数	158	123	205	0.007
		%	68.4	31.6	100.0		%	56.2	43.8	100.0	
	見守り専従あり (n=62)	人数	43	19	62	見守り専従あり (n=281)	人数	140	65	205	
		%	69.4	30.6	100.0		%	68.4	31.7	100.0	
		愛着がある			計			愛着がある			
		あまりない			計			あまりない			
住んでいる地区にどの程度愛着があるか	見守り専従なし (n=57)	人数	52	5	57	見守り専従なし (n=287)	人数	246	41	287	0.170
		%	91.2	8.8	100.0		%	85.7	14.3	100.0	
	見守り専従あり (n=63)	人数	60	3	63	見守り専従あり (n=207)	人数	186	21	207	
		%	95.2	4.8	100.0		%	89.9	10.1	100.0	
		生活面での協力～立ち話程度			計			生活面での協力～立ち話程度			
		あいさつ程度～付合いなし			計			あいさつ程度～付合いなし			
ご近所とどのような付き合いをしているか	見守り専従なし (n=56)	人数	47	9	56	見守り専従なし (n=278)	人数	226	52	278	0.644
		%	83.9	16.1	100.0		%	81.3	18.7	100.0	
	見守り専従あり (n=62)	人数	60	2	62	見守り専従あり (n=196)	人数	156	40	196	
		%	96.8	3.2	100.0		%	79.6	20.4	100.0	
		地域の全て～地域の半分の人			計			地域の全て～地域の半分の人			
		地域のごく少数の人			計			地域のごく少数の人			
見守りを行っている地域の方のおつきあいの人数はどの位か	見守り専従なし (n=56)	人数	25	30	55	見守り専従なし (n=274)	人数	129	145	274	0.004
		%	45.5	54.5	100.0		%	47.1	52.9	100.0	
	見守り専従あり (n=62)	人数	35	27	62	見守り専従あり (n=213)	人数	128	85	213	
		%	56.5	43.5	100.0		%	60.1	39.9	100.0	

地域特異別で「2 年前の見守りの必要性に対するあなたの気持ち」と「現在の見守りの必要性に対する気持ち」を比較すると、「見守りは必要ない」と答えた人は、2 年前と現在ともに農村部が最も多かった。

都市部と都市近郊では、2 年前に比べて現在、「見守りは必要」と答えた人の割合は増加していた(表 2)。

見守り専従の有無別で「2 年前の見守りの必要性に対するあなたの気持ち」と「現在の見守りの必要性に対する気持ち」を比較すると、2 年前は、「見守りは必要ない」と答えた人は、見守り専従ありの地域 25%で見守り専従なしの地域 40%であった。現在では、見守り専従なしの地域に比べて、見守り専従ありでは、有意に「見守り必要あり」と答えた人は多かった(表 2)。

表 2 見守りに対する気持ち(地域特異別)

項目	見守り専従の有・無		見守りは必要ない	見守りは必要	計	P値
見守りの必要性に対する現在の気持ち(2年前)	見守り専従なし (n=40)	人数	16	24	40	0.237
		%	40.0	60.0	100.0	
	見守り専従あり (n=61)	人数	15	46	61	
		%	24.6	75.4	100.0	
見守りの必要性に対する現在の気持ち(現在)	見守り専従なし (n=40)	人数	22	18	40	0.000
		%	55.0	45.0	100.0	
	見守り専従あり (n=61)	人数	6	55	61	
		%	9.8	90.2	100.0	

見守り対象者数について2年前と現在で比較をすると、双方で0～5人が最も多く、次に、6～10人が多かった。農村部と都市近郊では、2年前に比べて0～5人の割合が減少し、6～10人が増加していた(表3-1)。

見守り専従なしの地域では、2年前に比べて現在は、0～5人の割合が減少し、6～10人の割合が増加していた(表3-2)。

表 3-1 見守り対象者数(地域特性別)

項目	地域特性		0～5人	6～10人	11～15人	16人～	計
見守り対象者数(2年前)	都市部 (n=37)	人数	20	11	2	4	37
		%	54.1	29.7	5.4	10.8	100.0
	農村部 (n=18)	人数	14	2	1	1	18
		%	77.8	11.1	5.6	5.6	100.0
	都市近郊 (n=14)	人数	12	2	0	0	14
		%	85.7	14.3	0	0	100
見守り対象者数(現在)	都市部 (n=37)	人数	21	11	2	3	37
		%	56.8	29.7	5.4	8.1	100.0
	農村部 (n=30)	人数	20	7	1	2	30
		%	66.7	23.3	3.3	6.7	100.0
	都市近郊 (n=15)	人数	11	4	0	0	15
		%	73.3	26.7	0.0	0.0	100.0

表 3-2 見守り対象者数(見守り専従の有無別)

項目	見守り専従の有・無		0～5人	6～10人	11～15人	16人～	計
見守り対象者数(2年前)	見守り専従なし (n=20)	人数	16	3	0	1	20
		%	80.0	15.0	0.0	5.0	100.0
	見守り専従あり (n=49)	人数	30	12	3	4	49
		%	61.2	24.5	6.1	8.2	100.0
見守り対象者数(現在)	見守り専従なし (n=30)	人数	20	8	1	1	30
		%	66.7	26.7	3.3	3.3	100
	見守り専従あり (n=52)	人数	32	14	2	4	52
		%	61.5	26.9	3.8	7.7	100.0



表 4-1-1 平成 20 年度 見守り内容別に見た見守り人数(地域特性別)(n=306 複数回答)

見守り人数	訪問人数		電話人数		家の外から人数		協力員・近所人数		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
都市部	5人以下	151	70.6	72	53.7	53	67.9	64	79.0
	6~10人	30	14.0	44	32.8	13	16.7	14	17.3
	11~20人	27	12.6	14	10.4	7	9.0	2	2.5
	21人	6	2.8	4	3.0	5	6.4	1	1.2
	合計	214	100.0	134	100.0	78	100.0	81	100.0
農村部	5人以下	31	70.5	8	61.5	5	71.4	16	94.1
	6~10人	5	11.4	1	7.7	1	14.3	1	5.9
	11~20人	6	13.6	2	15.4	1	14.3	0	0.0
	21人	2	4.5	2	15.4	0	0.0	0	0.0
	合計	44	100.0	13	100.0	7	100.0	17	100.0
都市近郊	5人以下	25	52.1	39	81.3	46	95.8	43	89.6
	6~10人	5	10.4	3	6.3	0	0.0	2	4.2
	11~20人	15	31.3	6	12.5	2	4.2	2	4.2
	21人	3	6.3	0	0.0	0	0.0	1	2.1
	合計	48	100.0	48	100.0	48	100.0	48	100.0

表 4-1-2 平成 22 年度 見守り内容別に見た見守り人数(地域特性別)(n=121 複数回答)

見守り人数	訪問人数		電話人数		家の外から人数		協力員・近所人数		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
都市部	5人以下	24	82.8	12	92.3	10	100.0	7	77.8
	6~10人	5	17.2	1	7.7	0	0.0	1	11.1
	11~20人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1
	21人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	合計	29	100.0	13	100.0	10	100.0	9	100.0
農村部	5人以下	19	79.2	4	100.0	5	100.0	14	77.8
	6~10人	2	8.3	0	0.0	0	0.0	2	11.1
	11~20人	3	12.5	0	0.0	0	0.0	2	11.1
	21人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	合計	24	100.0	4	100.0	5	100.0	18	100.0
都市近郊	5人以下	10	71.4	6	100.0	4	100.0	3	100.0
	6~10人	4	28.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	11~20人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	21人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	合計	14	100.0	6	100.0	4	100.0	3	100.0

表 4-1-3 平成 20 年度 見守り内容別に見た見守り人数(見守り専従の有無別)(n=306 複数回答)

見守り人数	訪問人数		電話人数		家の外から人数		協力員・近所人数		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
見守り専従なし	5人以下	102	67.5	91	85.0	89	97.8	89	89.0
	6~10人	20	13.2	8	7.5	0	0.0	7	7.0
	11~20人	23	15.2	7	6.5	2	2.2	2	2.0
	21人	6	4.0	1	0.9	0	0.0	2	2.0
	合計	151	100.0	107	100.0	91	100.0	100	100.0
見守り専従あり	5人以下	105	67.7	28	31.8	15	35.7	34	73.9
	6~10人	20	12.9	40	45.5	14	33.3	10	21.7
	11~20人	25	16.1	15	17.0	8	19.0	2	4.3
	21人	5	3.2	5	5.7	5	11.9	0	0.0
	合計	155	100.0	88	100.0	42	100.0	46	100.0

表 4-1-4 平成 22 年度 見守り内容別に見た見守り人数(見守り専従の有無別)(n=121 複数回答)

見守り人数	訪問人数		電話人数		家の外から人数		協力員・近所人数		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
見守り専従なし	5人以下	19	76.0	7	100.0	5	100.0	12	80.0
	6～10人	3	12.0	0	0.0	0	0.0	2	13.3
	11～20人	3	12.0	0	0.0	0	0.0	1	6.7
	合計	25	100.0	7	100.0	5	100.0	15	100.0
見守り専従あり	5人以下	34	79.1	15	93.8	14	100.0	12	80.0
	6～10人	8	18.6	1	6.3	0	0.0	1	6.7
	11～20人	1	2.3	0	0.0	0	0.0	2	13.3
	合計	43	100.0	16	100.0	14	100.0	15	100.0

見守り内容別に見た見守り人数は、地域特性別、見守り専従の有無別比較で、「訪問人数」、「電話人数」、「家の外から(見守り)人数」、「協力員・近所(による見守り)人数」全ての項目で2年前と現在ともに5人以下が最も多かった(表 4-1-1～表 4-1-4)。

表 4-2-1 平成 20 年度 見守り内容別に見た見守り頻度(地域特性別)(n=306 複数回答)

見守り頻度 (1回/日)	訪問日		電話日		家の外から日		協力員・近所日		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
都市部	毎日	11	5.1	13	9.7	12	15.4	7	8.6
	2～3日	28	13.1	19	14.2	12	15.4	5	6.2
	4～7日	47	22.0	41	30.6	20	25.6	13	16.0
	8～14日	22	10.3	23	17.2	5	6.4	6	7.4
	15～30日	55	25.7	30	22.4	3	3.8	18	22.2
	31日以上	4	1.9	3	2.2	0	0.0	6	7.4
	無回答	47	22.0	5	3.7	26	33.3	26	32.1
合計	214	100.0	134	100.0	78	100.0	81	100.0	
農村部	毎日	2	4.5	1	7.7	2	28.6	2	11.8
	2～3日	6	13.6	2	15.4	1	14.3	0	0.0
	4～7日	5	11.4	1	7.7	0	0.0	2	11.8
	8～14日	12	27.3	4	30.8	2	28.6	1	5.9
	15～30日	11	25.0	5	38.5	0	0.0	2	11.8
	31日以上	1	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	無回答	7	15.9	0	0.0	2	28.6	10	58.8
合計	44	100.0	13	100.0	7	100.0	17	100.0	
都市近郊	毎日	0	0.0	0	0.0	1	2.1	1	2.1
	2～3日	1	2.1	1	2.1	1	2.1	1	2.1
	4～7日	0	0.0	2	4.2	1	2.1	1	2.1
	8～14日	4	8.3	6	12.5	1	2.1	2	4.2
	15～30日	12	25.0	5	10.4	1	2.1	4	8.3
	31日以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	無回答	31	64.6	34	70.8	43	89.6	39	81.3
合計	48	100.0	48	100.0	48	100.0	48	100.0	

表 4-2-2 平成 22 年度 見守り内容別に見た見守り頻度(地域特性別)(n=121 複数回答)

見守り頻度 (1回/日)	訪問日		電話日		家の外から日		協力員・近所日		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
都市部	毎日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	22.2
	2～3日	2	6.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4～7日	8	27.6	1	7.7	1	10.0	0	0.0
	8～14日	1	3.4	2	15.4	0	0.0	0	0.0
	15日～	1	3.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	無回答	17	58.6	10	76.9	9	90.0	7	77.8
合計	29	100.0	13	100.0	10	100.0	9	100.0	
農村部	毎日	1	4.2	0	0.0	1	20.0	0	0.0
	2～3日	4	16.7	0	0.0	1	20.0	2	11.1
	4～7日	2	8.3	0	0.0	0	0.0	1	5.6
	8～14日	7	29.2	1	25.0	1	20.0	3	16.7
	15日～	3	12.5	0	0.0	0	0.0	5	27.8
	無回答	7	29.2	3	75.0	2	40.0	7	38.9
合計	24	100.0	4	100.0	5	100.0	18	100.0	
都市近郊	毎日	0	0.0	0	0.0	1	25.0	2	15.4
	2～3日	1	7.1	1	16.7	0	0.0	2	15.4
	4～7日	3	21.4	2	33.3	1	25.0	1	7.7
	8～14日	0	0.0	1	16.7	0	0.0	8	61.5
	15日～	4	28.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	無回答	6	42.9	2	33.3	2	50.0	0	0.0
合計	14	100.0	6	100.0	4	100.0	13	100.0	

表 4-2-3 平成 20 年度 見守り内容別に見た見守り頻度(見守り専従の有無別)(n=306 複数回答)

	見守り頻度 (1回/日)	訪問日		電話日		家の外から日		協力員・近所日	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
見守り専従なし	毎日	6	4.0	4	3.7	2	2.2	3	3.0
	2~3日	7	4.6	9	8.4	4	4.4	2	2.0
	4~7日	9	6.0	8	7.5	8	8.8	4	4.0
	8~14日	14	9.3	14	13.1	4	4.4	5	5.0
	15~30日	47	31.1	19	17.8	3	3.3	15	15.0
	31日以上	4	2.6	2	1.9	0	0.0	4	4.0
	無回答	64	42.4	51	47.7	70	76.9	67	67.0
	合計	151	100	107	100	91	100	100	100
見守り専従あり	毎日	7	4.5	10	10.0	13	31.0	7	15.2
	2~3日	28	18.1	13	13.0	10	23.8	4	8.7
	4~7日	43	27.7	36	36.0	13	31.0	12	26.1
	8~14日	24	15.5	19	19.0	4	9.5	4	8.7
	15~30日	31	20.0	21	21.0	1	2.4	9	19.6
	31日以上	1	0.6	1	1.0	0	0.0	2	4.3
	無回答	21	13.5	0	0.0	1	2.4	8	17.4
	合計	155	100	100	100	42	100	46	100

表 4-2-4 平成 22 年度 見守り内容別に見た見守り頻度(見守り専従の有無別)(n=121 複数回答)

	見守り頻度 (1回/日)	訪問日		電話日		家の外から日		協力員・近所日	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
見守り専従なし	毎日	1	4.0	0	0.0	1	20.0	0	0.0
	2~3日	4	16.0	1	14.3	0	0.0	1	6.7
	4~7日	2	8.0	1	14.3	1	20.0	1	6.7
	8~14日	2	8.0	1	14.3	0	0.0	2	13.3
	15日~	4	16.0	0	0.0	0	0.0	3	20.0
	無回答	12	48.0	4	57.1	3	60.0	8	53.3
	合計	25	100.0	7	100.0	5	100.0	15	100.0
見守り専従あり	毎日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	13.3
	2~3日	3	7.0	0	0.0	1	7.1	1	6.7
	4~7日	11	25.6	2	12.5	1	7.1	0	0.0
	8~14日	4	9.3	3	18.8	2	14.3	2	13.3
	15日~	4	9.3	1	6.3	3	21.4	1	6.7
	無回答	21	48.8	10	62.5	7	50.0	9	60.0
	合計	43	100.0	16	100.0	14	100.0	15	100.0

見守り内容別に見た見守り頻度は、4~7日の頻度が高かったのは、「訪問」と「協力員さんや近隣の方から様子を伺う程度」であった。7日以内に1回の訪問頻度は、見守り専従ありの地域で多かった(表4-2-1~4-2-4)。

図 1-1 住民見守りネットワークを充実させるために何が必要だと思いますか(地域特性別)  
(n=121 複数回答)

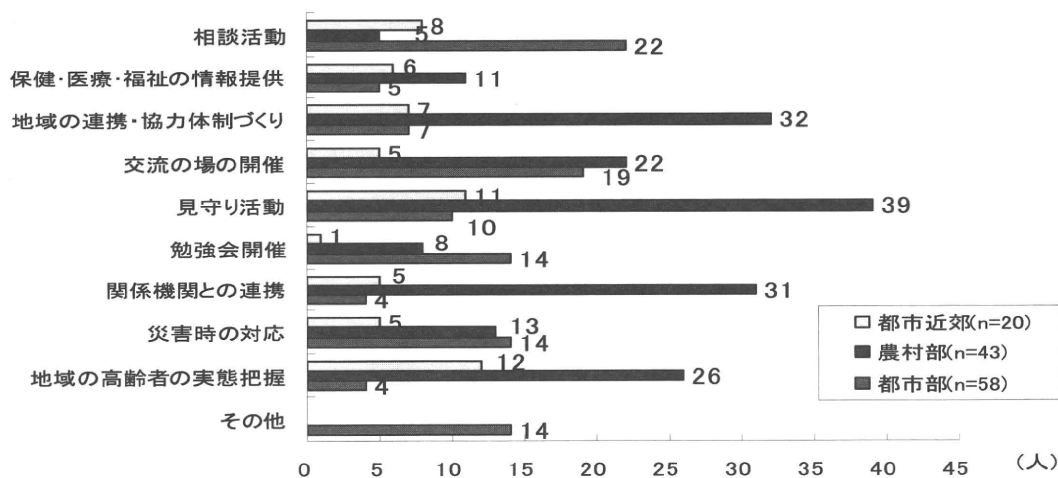


図 1-2 住民見守りネットワークを充実させるために何が必要だと思いますか(見守り専従の有無別)  
(n=121 複数回答)

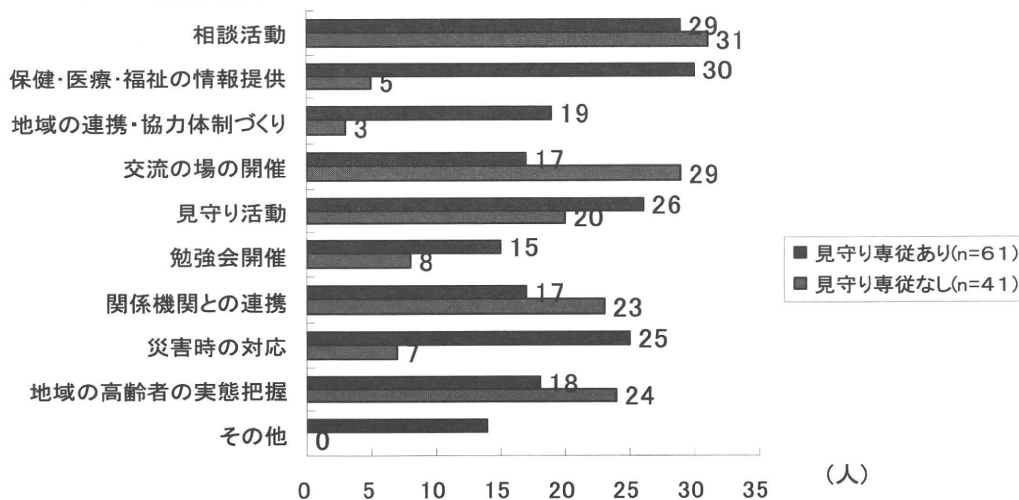


表 5-1 住民見守りはどこまでなれらできると思いますか (地域特性別) (n=121)

項目	地域特性		マンション等 同じ敷地内				計
			人数	同じ町内	小学校区	その他	
住民見守りはどこまで なれらできると思いますか	都市部 (n=40)	人数	24	14	2	0	40
		%	60.0	35.0	5.0	0.0	100.0
	農村部 (n=43)	人数	23	17	0	3	43
		%	53.5	39.5	0.0	7.0	100.0
	都市近郊 (n=19)	人数	1	12	3	3	19
		%	5.3	63.2	15.8	15.8	100.0

表 5-2 住民見守りはどこまでなれらできると思いますか (見守り専従の有無別) (n=121)

項目	見守り専従の有・無		マンション等 同じ敷地内				計
			人数	同じ町内	小学校区	その他	
住民見守りはどこまでな れらできると思いますか	見守り専従なし (n=41)	人数	15	20	2	4	41
		%	36.6	48.8	4.9	9.8	100.0
	見守り専従あり (n=61)	人数	33	23	3	2	61
		%	54.1	37.7	4.9	3.3	100.0